千年の森便り No.259

2025.8.27

ちば千年の森をつくる会

http://sfuku.cloudfree.jp/

代表　福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8 月 17 日（日）天候 晴れ時々曇り

モミの木の木陰で集合写真

連日、最高気温が 30℃を超え熱中症警戒アラートが毎日のように出る中での 8 月の定例活動となりました。集合場所に集まった時から強い日差しと高い気温･･･今日はくれぐれも無理をしないようにしようと思いました。

活動内容は、相対照度調査、ヒメコマツ植栽地の下刈り、植物観察、センサーカメラのデータ回収など、参加者は、秋元、伊藤、鵜沢、大原、坂本、福島の会員 6 名でした。

とても暑い 1 日でしたが､島ではツクツクボウシの声も聞かれ、そろそろ夏も後半戦、季節の移り変わりを感じました。今回も坂本さんから畑で採れたカボチャ、ゴーヤなどの差し入れをいただきました。ごちそうさまでした！（福島）

○相対照度調査

森林内の光環境を把握するため、夏と冬に相対照度の調査を行っています。特に植物が成長する夏の時期の森林内の明るさは、そこに生育する植物に大きな影響を与えます。森林内の明るさは、相対照度（何も障害物がない場所の明るさに対する森林内の明るさ）で表現します。明るさ（照度）は雲の動きによって刻々と変化するため、相対照度を測定するためには森林内と外で照度計を使って同時に測定する必要があります。そこで、調査には照度計 4 台とトランシーバ 4 台を使用して森林内と外で連絡を取りながら同時に測定を行いました。

なお、相対照度は、曇りで外の明るさが安定している時に測定するのがベストですが、今回は晴れで雲の動きが激しく明るさの変化が大きい状況でした。また、測定の際に照度計に太陽の光が直接当たると正確な相対照度が測定できないため、直射日光が照度計のセンサー部分に直接当たらないようにして測定を行いました。測定した高さは約 1 メートル、調査時間は 10:10～10:40 でした。

測定箇所は、昨年と同じく巨木林植生保護柵内（以下、柵内）、千年広場、コナラ更新林の苗畑跡地、ヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地、ナラ枯れ被害地（枯死したコナラを伐採した箇所）の 6 地点です。柵内については 4 か所で測定しその平均値としました。何も障害物がない対照地は吊り橋の上とし、各地点で 5 回測定を行い、その平均値をその地点の相対照度としました。

調査前の打ち合わせ

照度計とトランシーバ

照度調査中(ナラ枯れ被害地)

対照とした吊り橋

表 1 に各調査地点（柵内は平均値）の相対照度と、その経年変化を示しました。相対照度が最も高かったのはヒメコマツ植栽地で 47.1%でした。多くの植物にとって成長に支障がない明るさでした。次に高かったのは、ナ

ラ枯れ被害地 26.9%、岬ヒメコマツ植栽地 26.2%でした。ナラ枯れ被害地は昨年と同程度でしたが、岬ヒメコマツは年によるバラツキが大きく測定地点の微妙な違いが値に反映している可能性があります。いずれも森林内としては比較的明るい状況でした。千年広場中央は木漏れ日が入る明るさで 20.4%、コナラ更新林の苗畑は年による変化が大きく今回は 16.8%でした。柵内は 2.5%と低く、高木層にコナラが優先しナラ枯れの被害をほとんど受けていない森林らしい明るさ（暗さ）が維持されていました。

今後も継続して相対照度を調査することにより、ナラ枯れなどによる森林内の明るさの変化と植生の変化を観察していく予定です。調査に使用した照度計とトランシーバは、セブン・イレブン記念財団の助成を受けて購入したものです。（福島）

表-1 島内6地点の着葉期の相対照度の変化

	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期
測定箇所	2018.7.16	2019.7.21	2020.7.19	2021.7.18	2022.7.18	2023.7.17	2024.8.18	2025.8.17
千年広場中央	21.1	14.1	22.9	15.9	22.5	28.8	30.5	20.4
コナラ更新林の苗畑	13.0	-	12.6	18.2	5.0	21.2	4.1	16.8
コナラ更新林ヒメコマツ	41.6	28.8	36.0	26.3	33.6	55.0	46.3	47.1
岬ヒメコマツ	37.6	40.8	32.5	28.7	13.2	38.2	49.3	26.2
巨木林柵内	（2014年までの6回の平均は1.9%）				4.1	5.4	4.1	2.5
ナラ枯れ被害地							25.9	26.9

巨木林柵内は2023年まで25地点の平均値、2024年以降は4地点の平均値

〇酷暑の豊英島

ダム湖がほぼ満水です。例年 8 月頃は、水位が 10mほど下がり浅瀬の大地が現れます。樹皮のなくなった白い幹だけの木々が柱のように水没していた大地に立っていて奇妙な景観を作り出すのですが、今年は満水で浅瀬は見られません。豊英ダムは工業用水用のダムなので、工業用水としての水の使い方が変わったのでしょうか。

相対照度調査の後、ヒメコマツ植栽地の下草刈り時にキイロスズメバチに遭遇しました。巣は膝の高さ程度のヒメコマツの枝にあり 4、5 匹のハチがいました。雨が少ないときは低い位置に巣をつくるようです。巣は握りこぶし程度のこげ茶色をした球形です。白い縞模様が入りクラフト紙で紙風船を作ったような感じです。この巣を長い柄の鎌で落としましたが、基の部分が枝に残ったままとなりハチの退治には至りませんでした。

満水の豊英湖

キイロスズメバチの巣

イヌザンショウ

クサギ

ネコハギ

ヘクソカズラ

オトコエシ

オスグロトモエ？

島の花を求めて千年広場から南のホテイ岬方面を巡りました。コナラ伐採地では、緑白色をしたイヌザンショウの花、クサギは樹冠の隙間からわずかに筒状の白色の花を見せていました。また、草地低木区域ではではネコ

ハギ、ヘクソカズラ、オトコエシが見られ、オケラは先月と変わらず蕾のままでした。オオモンクロクモバチと思われる腹に黄色のラインが入る大型の黒っぽいハチが足元で羽音をたてていました。黄色のキタキチョウはひらひらと飛んでじっとしていません。オスグロトモエ？は静かにヒサカキに留まっていました。オニドコロは花の終わったヤマユリに巻き付き垂れ下がるように咲いていました。ここは、低木類、草本類の見られる貴重なギャップとして維持しています。

オニドコロ

ジョロウグモ

キッコウハグマとその蕾

ダム湖に倒れたアカマツ

吊り橋を望む

ツクツクボウシ

豊英ダム横のタマアジサイ

ホテイ岬への道はいたるところにジョロウグモの巣があり、棒で巣を払いのけながらの観察でした。6 月に開花したコクランは花序が残り、実はありませんでした。キッコウハグマは昨年 11 月に蕾がありましたが、だいぶ早く蕾をつけました。9 月には花が見られそうです。岬の先端では岸辺の不安定な場所で成長したアカマツが自重を支えきれずにダム湖に倒れていました。島にかかる赤い吊り橋はこの岬からよく見えて、私のお気に入りです。（秋元）

○スズメバチに刺された！

暑い最中ヒメコマツ林の下草刈りをしました。私はカマではなく、剪定バサミで潅木も含めて切って✂いました。すると突然右肩に注射されたような、鋭い痛みがはしりました。その場はすぐさま離れましたが、スズメバチに追撃され、今度は右肩背中側の肩甲骨を痛撃されました。スズメバチに刺されるのは、過去何回もあり、やられたという感覚でした。いつもは、そのまま放置していましたが、今回は手厚い対処をしていただき痛みも出ずに事なきを得ました。（秋元さんが持参のポイズンリムーバーを使って処置しました）

ポイズンリムーバーでハチ毒を吸出し中

実は、過去にオオスズメバチ、キイロスズメバチ、アシナガバチなど、年に 1 回ほど刺されています。だんだんに毒の効き方も弱くなる様です。韓国やグルジアではハチを使った治療もあるそうです。マングースの様にハブ毒が効かなくなる様な体質になるのか、それともアナフィラキシーショックの様な症状が今後出るのか楽しみ？です。（大原）

○ツチアケビの実が無くなった

千年広場近くのツチアケビの大株は 6 月に見事な花を咲かせて、7 月にはたわわな実を着けていました。8 月はどうなっているか藪を除くと実が殆どありませんでした。

茎は直立したまま、あの実はどうなったのか自分なりに色々考えました。

１ヒヨドリなどの鳥が食べた。
２シカなどの動物が食べた。
３薬用に人間が持ち去った。
４実が成り過ぎたので植物自身が実を落とした。
思いつくのは以上の通りですが、いずれの考えにも疑問点があります。
１鳥には丸呑みできないサイズなので、中身を突いて食べる筈なのに食べ粕が見当たらない。
２動物なら食い千切る時、茎が引き倒される筈なのに倒れたものは１本だけで茎は先端まで残っていた
３活動日以外はつり橋が施錠されているので部外者の侵入は無いと思う
４柿などの果樹には見られる性質だがツチアケビも同様なのか不明
事前にセンサーカメラを設置しておけば良かったと思いましたが、こんなに早く無くなるとは思わず油断していたので後の祭りです。ヒメコマツ植栽地の保護ネットの中には丸々と太った実が付いたままの株が１本残っていたので、見通せる位置にセンサーカメラを取り付けてもらいました。（坂本）

実がなくなった千年広場の大株

センサーカメラを設置中

背後にセンサーカメラを設置したチアケビ

○８月のきのこ

広義のキクバナイグチ

コテングタケモドキ

コガネヤマドリ

ドクツルタケ

ノウタケ

ニガイグチの仲間

ベニタケの仲間

○センサーカメラの動物たち

5 月 18 日から 6 月 15 日までの 29 日間の記録
いつも記録が多い CAM1 は、キョンが 29 日のうち 24 日記録があり、最大頭数は 2 頭でした。ほかには、アナグマが 16 日（最大頭数 2 頭）と多く観察されました。
CAM2 も、キョンの記録が 11 日（最大頭数 3 頭）と多く観察されました。
CAM3 は記録の頻度が少なかったものの、シカが 1 回記録されていました。シカの記録は 2023 年 12 月以来

17 か月ぶりとなります。

・ 設置期間：5 月 18 日～6 月 15 日（29 日間）
・ 設置場所：CAM1(つり橋着岸点付近)、CAM2(ホテイ岬への分岐点付近)、CAM3(ホテイ岬中央付近)
・ 日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても 1 日としています。

CAM1 キョン 24 日、アナグマ 16 日、ハクビシン 3 日、タヌキ 2 日、ニホンザル 1 日、テン 1 日、キジ 1 日
CAM2 キョン 11 日 、ハクビシン 3 日、アナグマ 1 日
CAM3 キョン 4 日 、シカ 1 日、アナグマ 1 日、ハクビシン 1 日、ネズミ類 1 日

6 月 15 日から 7 月 21 日までの 37 日間の記録
CAM1 は、キョンが 37 日のうち 10 日で記録があり、最大頭数は 2 頭でした。ほかに、アナグマ（4 日、最大頭数 1 頭）、ハクビシン（4 日、同 1 頭）の記録がありました。
CAM2 は、近くの巣で巣立ったと思われるトビが 9 日記録されていました。
CAM3 は、記録が少なくキョンが 2 日（最大頭数 1 頭）記録されたのみでした。

・ 設置期間：6 月 15 日～7 月 21 日（37 日間）
・ 設置場所：CAM1(つり橋着岸点付近)、CAM2(ホテイ岬への分岐点付近)、CAM3(ホテイ岬中央付近)
・ 日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても 1 日としています。

CAM1 キョン 10 日、アナグマ 4 日、ハクビシン 4 日、テン 1 日
CAM2 トビ 9 日、キョン 1 日 、アライグマ 1 日、ハシボソガラス 1 日
CAM3 キョン 2 日

キョン♂

アナグマ

ニホンジカ

（福島）

お知らせ

〇次回の定例活動は 9 月 21 日（日） です。

ニホンジカ生息状況調査、駐車場・電柵付近の草刈り、環境整備（観察路、広場）、危険木伐採等を予定しています。詳細については今後調整します。

ご参加をよろしくお願いします。島に入る際はヘルメット着用を忘れずに！

〇秋のきのこ観察会を 10 月 25 日（土）に開催します。